

催し物のご案内

植物園の最新イベント情報は、公式ホームページやSNSでチェック！



フォロー&いいね!をお願いします

観賞温室第2室 企画展示

開催中 5/26(日) シャクナゲ・ツツジ展

5/29(水) 7/7(日) 人と植物のかかわり1「紅茶」

観賞温室第3室1階 作品展示

5/8(水) 5/26(日) ボタニカルアート展 ◆ 出展: 下越ボタニカルアートの会

5/29(水) 6/9(日) 花の写真展 ◆ 出展: 秋葉写真クラブ

6/11(火) 6/30(日) 季彩紡ぎ ◆ 出展: Shibai × Araki

助成金のご案内

花と緑に関する活動、助成します！

(公財)新潟県都市緑花センターでは、『まちや学校を花いっぱいになりたい』『花や緑の講習・講座を開催して、地域や会社を元気にしたい』などの熱い思いが込められた緑化活動に対して、「花と緑のパートナーづくり事業」、「花と緑のアドバイザー派遣事業」2つの助成事業を実施しております。

詳しくは、都市緑花センターのホームページをご覧ください。たくさんのご応募お待ちしております。



パートナーづくり事業(朝日みどり小学校)

アドバイザー派遣事業(きのと小学校)

花と緑の教室 *要予約/開催日の1か月前から電話受付

会場・集合場所 ●花と緑の情報センター2階(無料入館エリア)
*参加費には温室入館料が含まれています

6/9(日) 花と緑の育て方・楽しみ方「マツの剪定」
10:30-12:00 ●定員:15名 ●参加費:500円 ●講師:田中良明(当園職員)

6/9(日) コーヒーはフルーツ。
浅煎りの焙煎でその魅力に触れてみよう
10:30-12:00 ●定員:15名 ●参加費:1,500円 ●会場:観賞温室
●講師:星野元樹(にいがたコーヒープロジェクトホシノテラス)
倉重祐二(当園園長)

6/9(日) 紅茶の淹れ方 ~基本と応用~
13:30-15:00 ●定員:18名 ●参加費:1,500円 ●会場:観賞温室
●講師:楠高典(市民活動団体NTeAにいがた紅茶会代表)

6/12(水) 花散歩③ 宿根草とハーブの花
13:30-15:00 ●定員:15名 ●参加費:500円 ●講師:林寛子(当園職員)

6/15(土) 五感で味わう新潟の花
~親子生け花体験『シャクヤク』~
10:30-11:30 ●定員:10名 ●参加費:1,000円

6/16(日) ●講師:須田寛子(花守)
10:30-12:30

6/23(日) 秋葉の茶学 ~口福のティータイム~
13:30-15:00 ●定員:20名 ●参加費:1,500円 ●会場:観賞温室
●講師:北川裕子(烏龍茶・国産紅茶販売 ビュアウロン)

6/30(日) 村上茶と紅茶について
13:30-14:30 ●定員:20名 ●参加費:1,500円 ●会場:観賞温室
●講師:飯島剛志(富士園)

イベント

5/14(土・祝) 5/15(祝) 春の植物園まつり
2日間は温室入館無料デー

6/2(日) 花と遺跡のふるさとフェスタ

観賞温室閉館日 *温室閉館時間/9:30~16:30(入館締切16:00) □ 休館日 ○ イベント開催日

4 April					5 May					6 June				
日	月	火	水	木	日	月	火	水	木	日	月	火	水	木
・	1	2	3	4	・	・	1	2	3	1	・	・	・	・
7	8	9	10	11	5	6	7	8	9	2	3	4	5	6
14	15	16	17	18	12	13	14	15	16	9	10	11	12	13
21	22	23	24	25	19	20	21	22	23	16	17	18	19	20
28	29	30	・	・	26	27	28	29	30	23	24	25	26	27

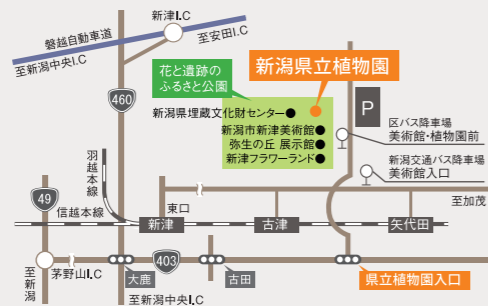
◆屋外園地無料 ◆無料駐車場300台収容

新潟県立植物園

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地
TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410
HP <http://botanical.greenery-nigata.or.jp/>
指定管理者 国際総合学園・都市緑花センターグループ

情報発信しています

新潟県立植物園 検索



観賞温室利用案内

	個人	団体 (20名以上)	回数券 (5回分)	定期券 (6ヶ月)
大人	600円	480円	2,500円	1,200円
シルバー (65歳以上)	500円			
高校生・学生	300円	300円		
小・中学生	100円	100円		

●シルバー料金での入館は生年月日を証明できる物の提示が必要となります。
●高校生・学生料金での入館は学生証の提示が必要となります。
●身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳所持者は無料となります(等級により介助者無料)。

JR 信越本線古津駅下車徒歩約25分
バス 区バス:新津駅東口から「新津駅西口」行き「美術館・植物園前」下車徒歩約1分
新潟交通バス:新津駅東口から「矢代田経由白根・湯東営業所」行き「新津美術館入口」下車徒歩約10分
高速道路 磐越自動車道新津ICから国道403号で三条/加茂方面へ約15分
一般道路 (新潟方面から) 国道49号から茅野山ICを国道403号加茂/新津方面へ20分



NIIGATA Prefectural Botanical Garden
NEWSLETTER
新潟県立植物園
植物園だより
2019 spring Vol.73

花いっぱい、発見いっぱい 春の植物園

3/27(水) 5/26(日) シャクナゲ・ツツジ展

5/29(水) 7/7(日) 人と植物のかかわり1「紅茶」

5/14(土・祝) 5/15(祝) 春の植物園まつり 2日間は温室入館無料デー

6/2(日) 花と遺跡のふるさとフェスタ





シャクナゲ・ツツジ展 3/27(水) 5/26(日)

観賞温室
第2室
企画展示

にいがたの花「アザレア」「チューリップ」に続きシャクナゲ・ツツジ展を開催しています。新潟県は花卉産業がさかんで、西洋シャクナゲも生産量、品種改良などで日本一を誇ります。今回の展示ではさまざまな種類の品種をはじめ、分類や栽培、品種改良の歴史や県内の生産状況などの話題を取り上げます。特に今年は野生種や貴重で珍しいシャクナゲ・ヤマツツジの仲間など当園のコレクションの一部を公開し、品種の多様さや特徴についての魅力をご紹介します。昨年4月、園地にオープンした古品種の大株が植栽された日本最大級のシャクナゲ園も合わせてご覧ください。(渡辺弘友)

園内にもシャクナゲ・ツツジの魅力がいっぱい

昨年4月にオープンしたシャクナゲ園では、4月下旬から5月中旬まで豪華な花を楽しむことができます。

見上げるような大きさの150株のシャクナゲは、主に西洋で交配された園芸品種です。1株のシャクナゲには300個ほどの蕾がつき、1つの蕾には10~15個の花が入っていますので、満開時には1株で3,000から4,500個の花が咲き誇ります。歴史的に見ても現在ほとんど栽培されることのない

貴重な品種が多数植えられています。

新潟県は昭和初期から日本を代表するシャクナゲの産地として知られ、現在も全国一の80%のシェアを誇ります。生産の中心は植物園の所在する新潟市秋葉区や五泉市で、品種改良も盛んに行われています。

また、ツツジ園には全国の自生地で集められた種子から育成したヤマツツジやミツバツツジの仲間が植えられています。サクラの咲く時期から5月上旬まで日本一のツツジコレクションの花をお楽しみください。(倉重祐二)

人と植物のかかわり 1 「紅茶」 5/29(水) 7/7(日)

初夏の
企画展示

今年の企画展示は、人と植物のかかわりをテーマに、飲み物に利用されている植物をピックアップして年2回開催します。第1弾は初夏の展示、「紅茶」です。

紅茶の原料であるチャノキを、植物という観点からその利用や文化などについて解説します。また、世界や日本へ渡り、広く楽しまれるようになった歴史や、日本の紅茶の取り組みのほか、地元新潟のお茶づくりの歴史を手もみ製茶で使用する実際の道具と合わせてご紹介します。

会期中は、紅茶の試飲会や紅茶の淹れ方などの教室といった、紅茶を楽しむイベントも企画していますので、どうぞお楽しみに。(近藤智子)

ボタンと遅咲きのサクラ



満開のサクラ松前

現在では花見といえば、全国各地に植栽されているソメイヨシノの花をイメージしますが、これは江戸時代後期に染井(東京都豊島区)で作出された園芸品種で、明治以降に全国に普及したものです。江戸時代には、さまざまな野生種や園芸品種が植えられ、長い期間花を楽しんでいました。

ソメイヨシノは4月中旬に花が終わってしまいますが、植物園のサクラの山は遅咲きの4月下旬から5月上旬に開花する品種も植えられています。

最も新潟らしいのが、親鸞聖人の越後七不思議の1つである「梅護寺数珠掛桜」でしょう。100枚以上の花びらがある菊咲きの品種です。また、黄色いサクラとして有名な「御衣黄」と「鬱金」、八重咲きの澄んだピンクの「松前」、八重咲きの代表的な品種「関山」などが見られます。

ボタンも年によって変動が多いのですが、ゴールデンウイークごろに満開になります。明治時代にシャクヤクにボタンを接ぐ技術を開発した新潟市秋葉区の江川木楽園から寄贈された150品種以上1,500株のボタンが咲き誇ります。(倉重祐二)



越後七不思議の1つ「梅護寺数珠掛桜」 黄色いサクラ「御衣黄」



満開のボタン園

植物園まつりが開催されました。

5月4日「みどりの日・植物園の日」、5月5日「こどもの日」は「植物園まつり」が開催されました。昨年からはスタートしたシャクナゲプロジェクトの一環として、シャクナゲ・ツツジに関する教室や、シャクナゲの鉢植えの販売が行われました。また、普段目にするのできない植物園の裏側を体験できる「バックヤードツアー」などが開催され、ゴールデンウイーク期間中に10,000人を超える方に來園いただき、園内は大変賑やかでした。



園内
ウォッチング
〈温室〉

旅の思い出に、タビビトノキ (*Ravenala madagascariensis*) コクラクチョウカ科

雨量の多い熱帯性気候に属するマダガスカル島東部に自生するタビビトノキ。

巨大な舟の楫のような形の葉を、左右対称の扇状に広げた姿からオウギバショウとも言われます。学名がマダガスカルエンシス(「マダガスカル」の意)とあり、図案化して国章や国営航空会社のロゴデザインに用いられています。

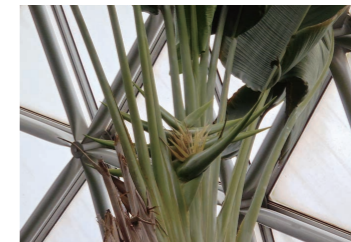
「木」と呼ばれますが、木質化する大型の多年草で、同科のルリゴクラクチョウカに似た小振りの花を咲かせます。

近縁種であるバナナは、食料以外に葉を傘や皿、茎の繊維から布や紙が作られますが、タビビトノキも現地では大変有効に活用されています。雨の多い東部では、高床式住居が一般的。成長して木質化した丈夫な幹はこの住居の柱や壁材に、葉は屋根材に使われます。また、種子はデンプンに富み食料にされます。

現地を訪れる旅人にとって、タビビトノキの独特な姿は忘れられない思い出になることでしょう。当園のタビビトノキをご覧いただき、遠いマダガスカルの地を想像してみてくださいはいかがでしょうか。(早川裕巳)



扇状に広がる葉/幹や葉は建築材に利用される



タビビトノキの花